

公園内で見られる植物

写真は5月23日（土）
自然観察会で見られた
植物です



ヤマボウシ（ミズキ科）

今、公園内に見事に咲き誇っています。中央の丸い緑の花穂を坊主頭に、花びらに見える白い4枚のものは花ではありませんが、僧兵（弁慶）がかぶっていた頭巾にみたてて、「山法師」になぞらえられています。



トベラ (トベラ科)

2月の節分にこの木の枝を扉に挟んで、邪鬼を払う風習があった為、「とびらの木」と呼ばれていたのが変化し略されて、「とべら」になりました。葉っぱを火にくべるとはぜる(パチパチ)らしいです。花は甘い良い香りがしますが、枝葉は鬼が嫌う匂いとされています。海岸の防風林として黒松と一緒に植樹するのに適しているようです。



ハマナス (バラ科)

5月になると赤い花びらが目立ち、甘い香りのする花が次々に咲きます。園芸用の改良品種が多くみられますが、もともとは海岸の砂浜(浜)に生え、果実がナシに似た形をしていることから「ハマナシ」という名前が付けられ、これが訛って「ハマナス」となったそうです。根は染料など、花はお茶など、果実はローズヒップとして食用になります。絶滅危惧種に指定されています。



ノイバラ (バラ科)

芳香のある白い花で、香水の原料に利用されています。実は利尿剤など、民間薬として利用されたり花材としても使われます。バラ科特有の刺があるので枝は触ると痛いです。



ガンピ (ジンチョウゲ科)

コウゾ、ミツマタとともに和紙の原材料として使われます。繊維が強靱で刃物を使わずに枝を取ることは大変困難です。特にガンピで作った和紙は雁皮紙として重用されます。重要無形文化財に認定されている「出雲民芸紙」は人間国宝安部榮四郎氏が雁皮（がんび）を使ってすいた力強い和紙として有名です。



ナツハゼ (ツツジ科)

葉っぱに触れてみてください。荒い毛があるのでざらつきます。夏の頃からハゼのように紅葉するという意味です。でも日陰に育っているものは、夏に紅葉しません。秋には実が黒色に熟し食べられます。ブルーベリーの実によく似ていますが、酸味が強いです。



スイカズラ (スイカズラ科)

花を引き抜き、細い方を口に含んで吸うと良い香りがあり、花の蜜の甘い味がすることから「スイカズラ」と言われています。葉の付いた茎や、花を乾燥させ中国では生薬として用いているようです。花の色が白から黄色に変化するので、金銀花とも呼ばれます。



シャリンバイ (バラ科)

花が何となく梅の花に似ていませんか？葉が枝先に車輪状に集まることからこの名前がきています。奄美大島特産の大島紬の染料として使用されているそうです。第2駐車場の壁一面に白い花が咲いています。



イタチハギ (マメ科)

外来生物法で要注意外来生物に指定されている、嫌われ者です。何となくイタチのしっぽに似ていませんか？



ツルアリドオシ (アカネ科)

同じ仲間のアリドオシに似て蔓性ですが蟻をも貫くような細い刺はありません。白い花は小さく気を付けていないと見過ごしてしまいます。花は2個並んで付き、秋になる実は合着して1個の実になりますが、花の跡が2本の突起として残り、不思議な形をしています。



ゴンズイ (ミツバウツギ科)

樹皮の模様が魚のゴンズイに似ている、あるいは役に立たないところが似ているなどで、この名前が付いたようです。淡黄緑色のかわいらしい小さな花をたくさん付けています。

果実が熟すと赤い果皮の中に黒い種子があり、よく目立ちます。